

> 特集

-震災復興への取り組み-

東北に未曾有の被害をもたらした東日本大震災が発生してから、1年半が経過しました。しかし、復興への道のりは、未だ遙かに続いていると言わざるを得ないのが現状です。その中で、山形県は東北地方の中でも比較的被害の程度が小さく、山形大学もその機能を維持することができており、その立場を生かし、東北の復興を牽引すべく様々な支援に取り組んでまいりました。

日帰りボランティアバスツアー「スマイルエンジン山形」

山形大学は、東北芸術工科大学と共同で、日常の10%のリソースを震災復興に充てようというプロジェクト「スマイルトレード10%」を展開してきました。その中の活動として、平成23年5月から毎週末運行してきた日帰りボランティアバスツアー「スマイルエンジン山形」が、開始からちょうど1年経った平成24年5月、定期便の運行を終了しました。

スマイルエンジン山形の定期便は、1年間で41便を運行、両大学の学生や教職員をはじめ、県内外から計1,633人が参加しました。6月に行われた活動報告会では、運営スタッフを務めた34人の学生の代表から、これまでの活動の総括と、今後の支援のあり方について報告があり、その運営スタッフらに対して山形大学、東北芸術工科大学の学長から感謝状が贈呈されました。

また、スマイルエンジン山形は、活動において多くの協力体制を構築するなど枠を越えた連携と、立ち上げのスピード・継続が高く評価され、山形県が主催する「やまがた公益大賞」において「復興きずな特別賞」を受賞しました。

スマイルエンジン山形は今後も随時運行を予定しており、「復旧」から「復興」へと移行する中で、多様化していく被災地のニーズに寄り添いながら、活動を続けます。



「スマイル・トレード10%」

詳細については、ホームページ(<http://www.smiletrade10.com/>)をご覧ください。



「スマイルエンジン山形」

スマイル・トレード10%の活動として、宮城県沿岸部への日帰りボランティアバスを今後も随時運行します。

参加を希望される方など、詳細については、ホームページ(<http://www.smiletrade10.com/engine/>)をご覧ください。



「スマイルエンジン山形」活動の様子



平成24年6月に行われた活動報告会にて、山形大学、東北芸術工科大学の両学長から感謝状を贈呈された運営スタッフ



平成23年10月に開催された「やまがた公益大賞」授賞式の様子

「東北創生研究所」の設立

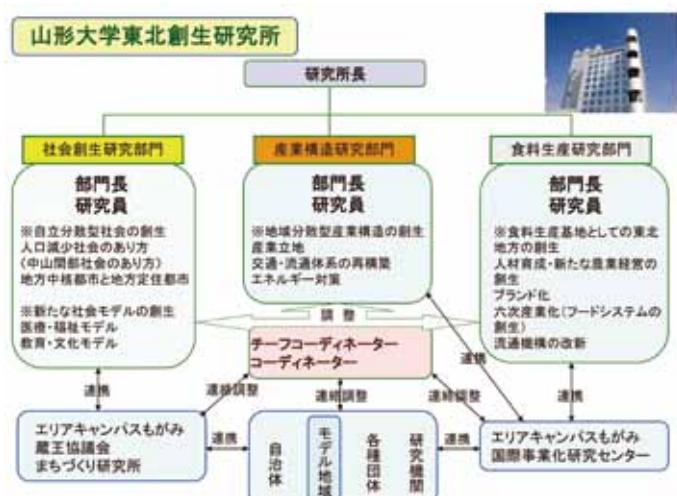
東日本大震災において、災害時における物流のストップなど従来の一極集中型の社会システムがもたらす様々な問題が浮き彫りになったことなどを踏まえ、自立分散型社会システム及びその基盤となる新たな社会構造のモデル構築について研究し、東北地方における新しい社会システムの創生を目指す「東北創生研究所」を、平成24年1月1日に設立しました。

8月8日には、東北創生研究所キックオフシンポジウムを開催し、各部門における研究概要を紹介した後、パネルディスカッションを行い、県及び市町村からのパネリスト

トを交えて、地域の抱える課題や各研究部門との連携、今後の取組みなどについて活発な意見交換を行いました。

研究所には、地方における人口減少社会をふまえた、自立分散型社会システム創生のための研究に取り組む「社会創生研究部門」、エネルギー対策や産業立地、インフラの構築を見据えた地域分散型産業構造に関する研究する「産業構造研究部門」、新たな農業経営やその人材育成、ブランド化、流通機構の改新など、食料生産基地としての東北地方のあり方に関する研究する「食料生産研究部門」の3つの部門から構成されています。県内各所に分散したキャンパスを有した総合大学という特性を生かし、県内各市町村でモデル地域を設定し、実践的研究を積極的に進めています。

「東北創生研究所」組織図



「災害復興学」の確立に向けて

平成23年12月15日、山形大学、福島大学、宮城教育大学が共同で「南東北三国立大学長決意表明記者会見」を行い、その中で、「災害復興学」の確立について3大学で共同で取り組むことを表明しました。

「災害復興学」とは、被災の記憶を乗り越えて「生きる力」を持たせること、実際に災害に遭遇したときに、冷静かつ的確に対処できるような知識と心構えを持たせること、また、他の地域で災害が起こったときに支援の手をさしのべる際のノウハウや、

復興活動に携わる中で人間的な成長をはかれることなどを目的としています。「防災学」は学問的に発達していますが、「災害復興学」は未だ体系化されておらず、今、そしてこれからの中北に必要な学問として確立していくことが期待されており、今後はテキストの作成と講義の実施や、復興学研究会の設立などを目指していきます。

平成24年3月4日には、災害復興キックオフシンポジウムが行われ、阪神淡路大震災からの教訓についての基調講演や、災害復興においての教育についてのパネルディスカッションが行われ、今後、長期にわたり3大学が取り組んでいく「教育を中心とした復興」について考えるための有意義な足がかりとなりました。

平成23年12月15日に開催された
「南東北三国立大学長決意表明記者会見」





放置自転車などを回収、修理して被災地へ届けることを目的に始まった農学部学生ボランティアプロジェクト「走れ!! わあのチャリ」は、当初の活動(上の写真4枚)に加えて、被災地へ花や野菜の苗を届けたり(下の写真3枚)、その他被災地のニーズに合わせて様々な活動を行っています。

2012年10月には、その活動が評価され「やまがた公益大賞」を受賞しました。

山形大学に関連する活動では、前年のスマイルエンジン山形に続き2年連続の受賞です。

